

陶生町自主防災会の活動視察

日 時：平成26年10月25日（土）17：30～20：00

場 所：昭和区陶生町付近（市立大学病院内公園他）

【陶生町自主防災会について】

防災まちづくり名古屋1番のまちをめざし、平成25年4月に情報班、消火班、救出救護班、避難誘導班、給食給水班を組織して立ち上げました。防災・減災活動を地域全体で進めるためには顔の見える信頼関係づくり、助け合いの仕組みづくりが伴わなければならないとして、様々なコミュニティ活動にも取り組んでいます。

昨年度は「『はじめの一步』」部門の助成を受けて、点の防災から面の防災への取組みとして風呂桶の置き水や大型ゴミバケツ利用の防火水槽の水を用いての地域のバケツリレー、家族全員が無事のとき玄関にりぼんをかけて表示する「幸せの黄色いリボン」や笛による安否確認、地域の絆づくりを兼ねての竈^{かまど}を利用した炊き出し訓練（芋煮会）などを実施しました。

今年度はさらなる進化、発展をめざして活動しています。

【活動の様子】

1. 夜間訓練

10月25日（土）陶生町自主防災会の活動視察に行ってきました。

昨年も実施されていた安否確認訓練でしたが、今回は初めての夜間での訓練を実施しました。

会場のテントには明かりが灯され、ライト付きヘルメットを着用したメンバーや地域住民が懐中電灯などを手に続々と集まってきました。

本部の担当者は、地域世帯を網羅した一覧表に光を当ててチェックしたり、これから安否を確認するルートの説明をしたり昼の訓練では見られない光景がありました。



本部テント前に集まる地域の人々



要介護者を想定した車椅子による訓練



陶生町自主防災会代表の挨拶



懐中電灯の光をあててルートを確認

陶生町自主防災会の代表による挨拶と当日の訓練の説明が終わると、7つのブロックに分かれて地域をまわり安否の確認をします。

陶生町自主防災会は安否確認の手段として「幸せの黄色いリボン」と名付けた「家族全員が無事なら玄関先など見やすい場所に黄色いリボンを掛けて表示する」という方法、歩行困難者のための呼子笛による確認方法などをとっています。

この取り組みは昨年度からありましたが、今年は夜間でもリボンが確認しやすいようにリボンに同色の蛍光塗料を塗るという試みが行われていました。



玄関先の「黄色いリボン」を確認！



蛍光塗料で光をあてるとリボンが光ります

また、本年度から災害本部にアマチュア無線局を開設し、安否確認状況をメンバー同士で取り合うことで、昨年より安否確認の時間を短縮することに成功していました。



新しい試みのアマチュア無線基地局開設



各班のメンバーが無線で連絡を取り合います

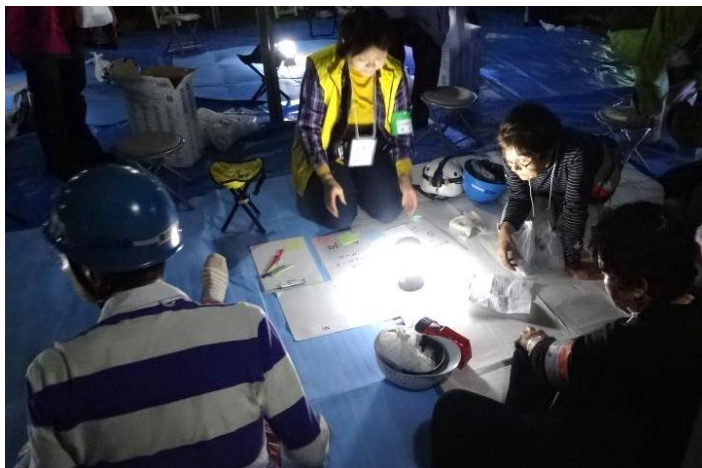
参加者50人のうち、7つのブロックに分かれた21人が地域の96世帯をまわり、「幸せの黄色いリボン」88世帯、「笛の音」15世帯の安否を確認しました。(未確認4世帯)

黄色いリボンは家族全員無事のサイン ⇒



その後、本部テントの中で30人程が「大災害が発生した」という想定でクロスロードゲームに参加しました。

真冬の2月に最大震度7の地震が発生した状況を想定したクロスロードゲームが行われ、メンバーや参加した地域住民が様々な意見を出し合っていました。



災害クロスロードゲームの様子

災害クロスロードゲーム

災害時におこりうる様々な想定設問に対して各自が Yes か No で自分の意見を示し、お互いに違う意見に耳を傾けることによって、よりよい対応策を求めて意見交換をする。

はじめての夜間訓練の中、メンバーの連携のもと新しい試みも成功し、昨年よりもより進んだ取り組みの防災訓練でした。

自分たちのまちは自分たちの手で守りたいという思いと、地域の防災に様々な工夫をしていきたいというメンバーの思いが次々と実現し、防災まちづくり名古屋一番のモデル地域となることをめざすという高い意識が感じられる訓練でした。



～ にやにやの感想 ～

地域の防災訓練でここまで色々な工夫ができるということに感動しました。

夜間ならではの工夫や新しい試みもふんだんにあり、昨年より発展を感じました。

その中でも、とくに、付け焼刃ではないメンバー同士の一体感と連携プレーが素晴らしく要介護者や社会的弱者への配慮や地域住民への思いやりが伝わってきました。単に災害に備える防災訓練というだけでなく顔の見える関係性や、地域の温かい心の交流をめざしているメンバーの心意気が地域にも浸透しているように感じました。今後も心の通い合う助け合いの仕組みづくりの発展を期待しています。



～ばやしの感想～

夜間訓練という、活動には難しい時間帯にもかかわらず、町内が一体となって取り組まれていることに驚きました。各メンバーが積極的に、そして楽しげに活動に参加されているのを見ると、真面目に実施することも大切ですが、継続的に活動が続いていくためには、みんなと一緒に活動すること、おしゃべりなどのコミュニケーションによる楽しさが必要なんだと感じました。他の地域から活動を見学している方がみえたので、町内以外にも団体の活動を伝えていってほしいと思います。